


報道機関各位

令和元年（2019年）8月27日（火）配付

項 目	「令和元年秋のヒグマ注意特別期間」について
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・【参考資料】「令和元年秋のヒグマ注意特別期間」について ・普及啓発ポスター「秋はヒグマに注意！」 ・普及啓発リーフレット「あなたとヒグマの共存のために」
内容及び報道に当たったのお願い	<p>道では、ヒグマによる人身被害を防止するために、例年、特に人とヒグマが野山で遭遇する頻度が高まる春と秋に「ヒグマ注意特別期間」を設定し、道民等へのヒグマに対する注意喚起に努めています。</p> <p>本年もキノコ採りやハイキングなどで野山に出かける機会が多くなる季節を迎えるにあたり、次のとおり「令和元年秋のヒグマ注意特別期間」を設定しましたので、お知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 令和元年秋のヒグマ注意特別期間 令和元年（2019年）9月7日（土）～ 令和元年（2019年）10月31日（木）までの55日間</p> <p>2 普及啓発方法</p> <p>(1) 普及啓発ポスターの掲示、リーフレットの配布 振興局及び市町村庁舎等において、別添の普及啓発ポスター「秋はヒグマに注意！」の掲示や、リーフレット「あなたとヒグマの共存のために」を配布。</p> <p>(2) 広報誌等への掲載 市町村に対して、広報紙等による住民への注意喚起を依頼。</p> <p>3 啓発内容 野山でヒグマに遭遇しないために、次の基本事項を周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食べ物やゴミは必ず持ち帰る。 ○一人では野山に入らない ○野山では音を出しながら歩く ○事前にヒグマの出没情報を確認する ○薄暗いときには行動しない ○フンや足跡を見つけたらすぐに引き返す。
担 当	<p>オホーツク総合振興局 保健環境部環境生活課 環境生活課長 大月 淳 自然環境係長 永井 秀和 電 話：0152-41-0630 FAX：0152-44-3122</p> 

【参考資料】

1 「令和元年秋のヒグマ注意特別期間」について

期間：令和元年9月7日（土）～10月31日（木）の55日間

(1) 概要

ヒグマによる人身被害の未然防止を図るため、平成14年度から、道民等が山菜採りやキノコ採りなどのため、ヒグマの生息する野山に入る機会の多くなる春と秋に「ヒグマ注意特別期間」を設定し、普及啓発事業を実施。

(2) 取組

「野山でヒグマに遭わないための基本的ルール」の普及啓発を図るための取組を実施。

<基本的なルール>

- 事前にヒグマの出没情報を確認する
- 単独行動を避け、複数で行動する
- 鈴など音の出るものを鳴らす
- クマの足跡やフンを見つけたら、すぐに引き返す

<取組>

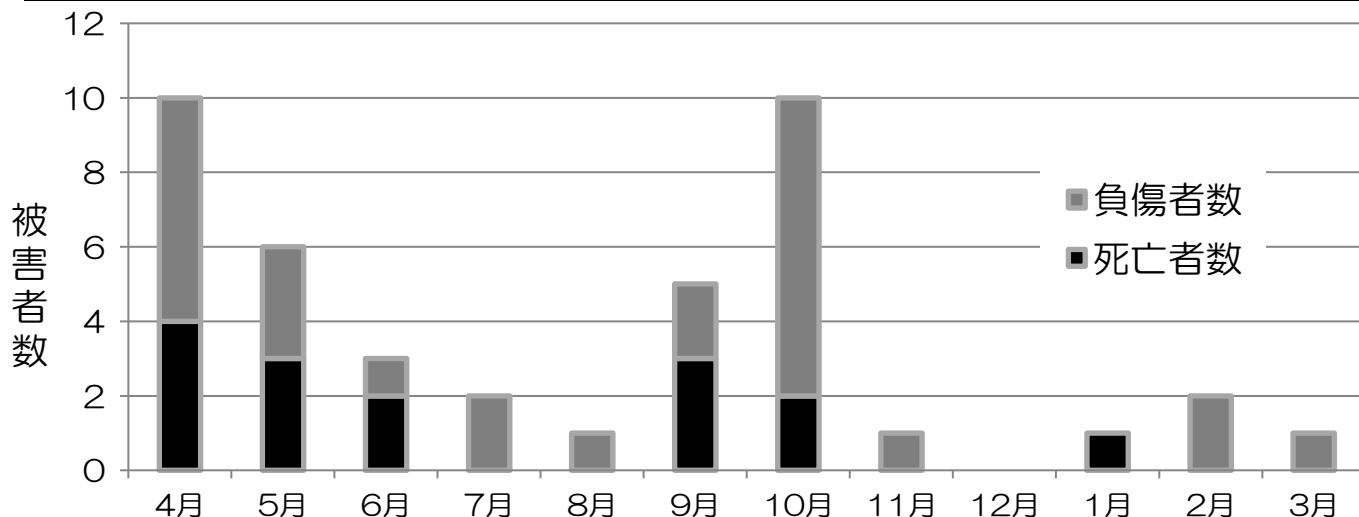
- 総合振興局・振興局職員による巡視活動
- 普及啓発リーフレットの配布
- 道のホームページで市町村のヒグマ出没情報サイトへのリンク集を掲載 など

2 ヒグマによる人身被害について(狩猟や駆除の際の事故を除く)

(1) 月別被害者数 (H1～R1年7月末現在の合計)

ヒグマによる人身被害は、特に春と秋に多く発生しています。これは、春は山菜採り、秋はキノコ採りなど、人間が山野に出かける機会が多い季節であることに加え、ヒグマも春は冬眠明けのために、秋は冬眠を控えてともに餌を求めてより活発に活動するため、人間とヒグマが遭遇する確率が高まることが原因と考えられています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死亡者数	4	3	2	0	0	3	2	0	0	1	0	0	15
負傷者数	6	3	1	2	1	2	8	1	0	0	2	1	27
合計	10	6	3	2	1	5	10	1	0	1	2	1	42

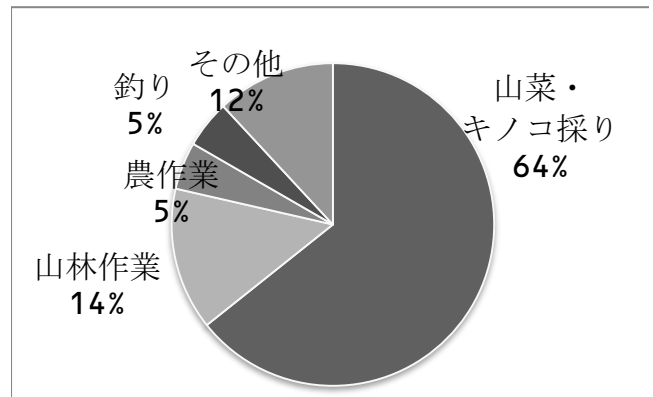


(2) 人身被害発生時の被害者の活動 (H1~R1年7月末現在の合計)

ヒグマによる人身被害発生時の被害者の活動をみると、山菜採り及びキノコ採りが約3人に2人の割合と最も多く、山菜採りやキノコ採りは特に被害に遭いやすい野外活動といえます。

なお、人身被害で最も多いのは、ヒグマの捕獲に従事しているときに逆襲されるなどで狩猟者が被害に遭うものですが、特殊な事例のためそれらについては除外しています。

被害者の活動	被害者数	内 訳	
		死亡	負傷
山菜・キノコ採り	27	11	16
山林作業	6	1	5
農作業	2	1	1
釣り	2	2	0
その他	5	0	5
合計	42	15	27



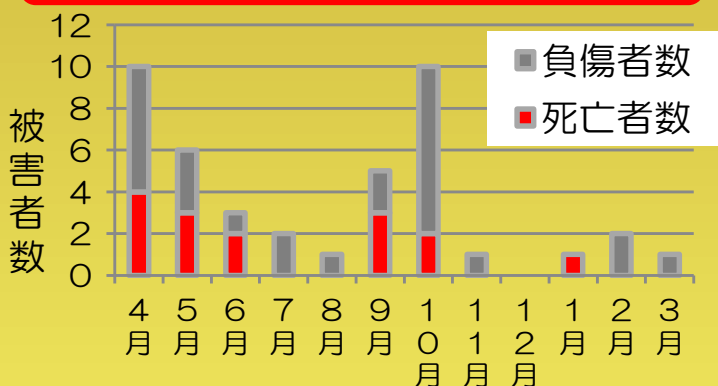
〔過去10年間 (H21~) の秋 (9~10月) に発生した事故の概要 (狩猟や駆除の際の事故を除く) 〕

年度	発生月	被害者の活動	発生地	被害者	死傷
H21	10月	散歩	留萌管内苫前町	66歳男性	負傷
H25	9月	やまぶどう採り	渡島管内函館市	63歳男性	負傷
H26	9月	散歩	オホーツク管内滝上町	76歳男性	負傷
	10月	キノコ採り	石狩管内千歳市	59歳男性	負傷
H28	10月	山林作業	釧路管内厚岸町	40歳男性	負傷
H29	10月	キノコ採り	釧路管内白糠町	73歳男性	死亡
H30	10月	キノコ採り	渡島管内八雲町	58歳男性	負傷

H22~H24、H27：被害なし

秋はヒグマに注意

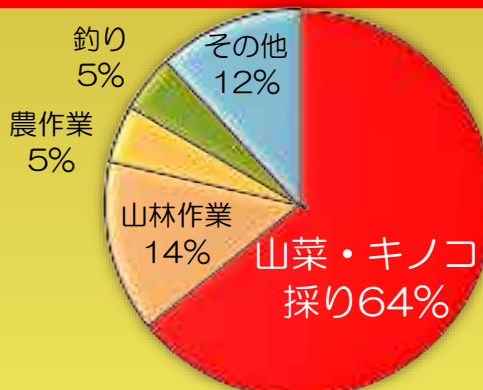
人身被害は春と秋に多く発生



発生月別のヒグマによる人身被害者数

(平成元年度～令和元年度7月末 狩猟者が被害者の事例を除く)

被害の2/3は山菜・キノコ採りで発生



被害発生時の被害者の活動

(平成元年度～令和元年度7月末 狩猟者が被害者の事例を除く)



秋のヒグマ注意特別期間

令和元年 9月7日(土)～10月31日(木)

あなたが被害者にならない一番の方法は

ヒグマに遭わないことです

食べ物やゴミは必ず持ち帰る

一人では野山に入らない

野山では音を出しながら歩く

事前にヒグマの出没情報を確認する

薄暗いときには行動しない

フンや足跡を見たら引き返す



危険なヒクマを 作らないために。

ゴミはヒクマを呼びよせます。

残飯、生ゴミなどはクマにとっておいしいごちそうです。

いったんゴミの味を覚えると、それを目当てにゴミ捨て場に寄り寄り出てきます。また、人そのものにも近づくようになります。

普通のクマはクマの方で人間をさげるものです。それをゴミによって引き寄せられることで問題がおきます。

あなたがクマの被害にあわないようにするため、そしてクマが人間に近付いて捕獲されないうようにするために、ゴミの投棄方法はきちんとしましょう。野外に放置したり、埋めたりすることは危険です。

実際に平成11年～21年度に福島半島地域で熊器によって捕獲されたヒクマ5,866個体の胃袋を分析した結果、7.0%に当たる42個体からゴミ袋が出現しました。



ヒクマに弃られたゴミバケツ

情報BOX

違法な水産物採取へ、500離れた地点からクマが1日でやって来て、20日間居ついたことがあります。(上ノ国町での調査から)

あなたの不注意によるゴミが、あなたとクマを危険におとし入れるのです。

出沒地域に住む人に…

ヒクマは特として危険な生き物になります。いつものことだと油断しがちですが、事故は家のすぐそばでも起きてしまいます。

冬眠こそやめ、水産物採取はクマを強く引きつけます。木の放し網いや山で放して置かれて多くの熊捕です。収まるものはクマを興奮させます。

山菜採りに行く人に…

クマも山菜を食べにきています。あなたはクマの餌場に入っています。

あなたが熊害に合う確率の最も高い人です。下ばかり向いていないで、時には熊害に注意を払ってください。単独で入ることなく、おしゃべりしたり、熊またでることを忘れないように。また、クマの遺跡にも気をつけましょう。

キャンプをする人に…

クマの餌場のあるところでキャンプをしないようにしましょう。クマを引寄せたりクマはすぐには逃げません。クマを引寄せたりクマはすぐには逃げません。

登山が好きな人に…

クマの生活圏に入ることになりますから、どこにでもクマがいると考えるで行かないで下さい。登山、日没の行動はクマと出会う確率が高くなります。山道で出会うならお互いにクマが情報交換をしましょう。ゴミは絶対に残さないようにしましょう。ゴミは後から来た人を危険におとしいれます。

深流釣りを楽しむ人に…

深い深流では、水首や堤防までクマでも人もお互いに近づいてくることがあります。常に周囲に気をつけていきましょう。

ヒクマの生活と人間活動



あなたとヒクマの 共存のために

北海道の多くの地域は
ヒクマの生息地です。



出沒地域に住む人に…
山菜採りに行く人に…
キャンプをする人に…
登山が好きな人に…
深流釣りを楽しむ人に…

クマとの事故をなくすには。。。

ヒグマに出会わないことです。

● ヒグマの出没情報に気をつけましょう。

山に入る前には新聞やテレビあるいは地元の人に聞くなどクマの情報を気をつけましょう。

● 音を出しながら歩きましょう。

山に単独で入らない。しゃべりながら歩く。鈴をつける。手をたたく。大声で「人が来ていますよ」などと声をかける。



情報
BOX

クマの聴覚、嗅覚はヒトよりもはるかに鋭いものです。

● 薄暗い時には行動しないようにしましょう。

● クマのフンや足跡、食べた跡を見つけたらすぐに引き返しましょう。

これらの跡は怖れないとかなかなかわからないものですが、下図のような足跡、フンや草の食いちぎられた跡などをみておかしいと想ったら引き返すことです。



クマの前足

後足

人の足

ヒグマのフン



まず落ちついで行動して下さい。

それでもヒグマに出会ってしまったら・・・

● 速くにクマを見つけたら一。

落ちついて状況を判断して下さい。クマがこちらに気づいていないなら、その場を静かに立ち去りましょう。

● クマがこちらに気づいていたら一。

クマの移動する方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。あわてることは事故につながります。まぎろちつくことです。普通にしていれば、ほとんどのクマは立ち去るはずですよ。

● それでも近づいてきたら一。

クマから視線をはなさないで下さい。そしてクマの動きを見ながらゆっくりと後退して下さい。この時、リュックや服など持ち物をそっと置くとクマの気を引いて時間をかせげます。



※これらの図解は自殺行為です。

● 大声、走って逃げる、石投げは自殺行為です。

クマを刺激しないことです。木々に登ってやりすごした例もあります。まぎろちついて状況を判断することです。

子グマを捕縛しようとすることは自殺行為です...

● 子グマの後ろに必ず親グマあり!

子グマを見つけたら絶対に近づかないことです。すみやかに立ち去って下さい。不用意に近づくと母グマの攻撃を受けます。

なお、子グマは生後1年半〜2年半まで、大きさにして大型犬以上になるまで、母親といっしょに行動します。

これで完全という方法はありませんが...

● 驚いかられたら一。

北米では、首の後ろを手で覆い、地面に伏して、顔面、後照器への致命傷を防ぐ方法を勧められています。洞内の死亡事故でもこの部分が致命傷となっている事例がみられます。また、クマ駆逐スプレーがある程度有効であることも知られています。

一番大事なことはクマに出会わないことです。

情報
BOX

● ヒグマの食物

ヒグマは主に草や果実、木の实などの植物質のものを食べます。春はフキなどの草木類、秋はドングリ、ヤマブドウ、コクワ等の木の实をたくさん食べます。